

「評価」 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

調査数 2016年度:30名、2017年度:31名、2018年度:26名

I はじめに

本校は2015年に職業実践専門課程として文部科学大臣より認定を受けた。それまでは広島YMCA版の自己評価表に基づき自己評価を実施していたが、2016年度から「学校評価を活かした専修学校の質保証向上に向けて」～専修学校における学校評価実践の手引き～を参考に自己評価アンケートを作成し、全教職員を対象にアンケートを実施している。2016年度から2018年度のアンケート結果は下記の通りである。

2016年度は細かい評価規準を作成しておらず、評価規準があいまいな点があった。そこで、2017年度は学内の「自己点検・自己評価委員」会で評価規準を検討し、その規準に基づいて評価を実施した。

学内の委員会では、毎年のアンケート結果を検証し、評価の低い項目については改善のための協議を行っている。2016年度は教育理念が長文で理解が難しいことから、より分かり易く短くポイントを得た文章に変更した。2017年度は卒業生の支援に課題があり、同窓会名簿を整理し、同窓会機関誌発行の準備中である。

また、学内での就職情報伝達方法、学生や教職員との緊急連絡のメール発信、イントラネット等の推進を行い業務の効率化についての検討も行っている。

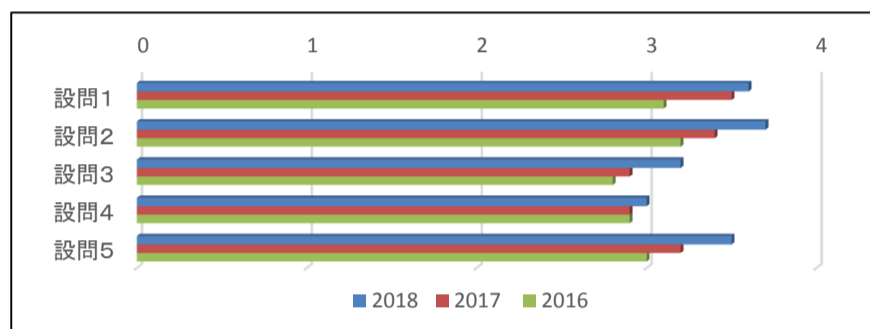
下記の結果に示す通り、年々評価はよくなっている。

II 結果及び考察

1 教育理念・目標 平均 3.41

		2018	2017	2016
理念・目的・育成人材像は定められているか	設問1	3.6	3.5	3.1
学校における職業教育の特色が明らかになっているか	設問2	3.7	3.4	3.2
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	設問3	3.2	2.9	2.8
理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	設問4	3.0	2.9	2.9
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	設問5	3.5	3.2	3.0

1 教育理念・目標

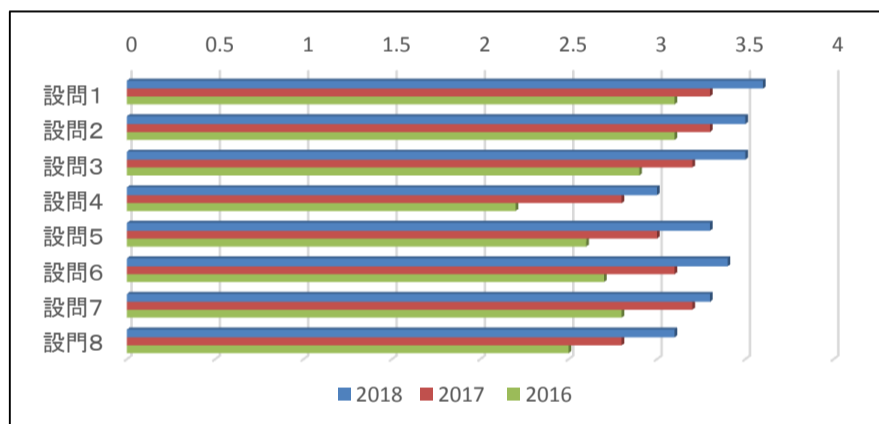


「教育理念等が学生や保護者に周知されているか」については、学生や講師等関係者に学生便覧を配布し、新入生オリエンテーション時に説明学校玄関のエントランスホールにも掲示し、周知を図っている。

2 学校運営 平均 3.32

		2018	2017	2016
目的等に沿った運営方針が策定されているか	設問1	3.6	3.3	3.1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	設問2	3.5	3.3	3.1
運営組織や意思決定機能は、規則等において明文化されているか、有効に機能しているか	設問3	3.5	3.2	2.9
人事給与に関する制度は整備されているか	設問4	3.0	2.8	2.2
教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	設問5	3.3	3.0	2.6
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	設問6	3.4	3.1	2.7
教育課程に関する情報公開が適切になされているか	設問7	3.3	3.2	2.8
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	設問8	3.1	2.8	2.5

2 学校運営

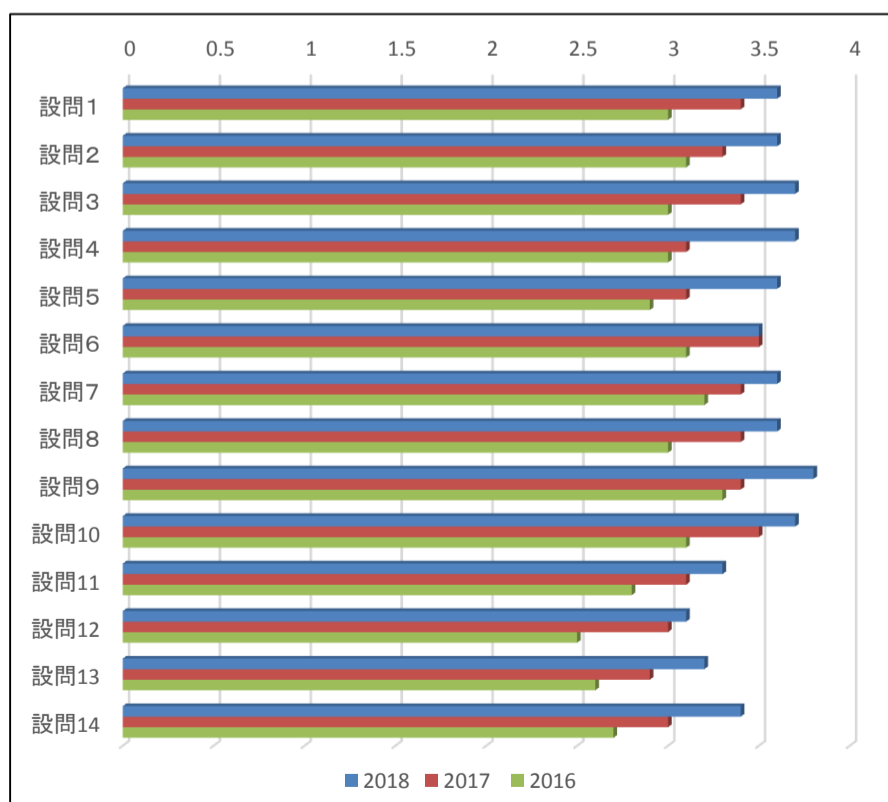


すべての項目で良くなっている。「人事給与に関する制度の整備」については広島YMCAの管轄であり、本校単体での改善には限界がある。

3 教育活動 平均 3.51

		2018	2017	2016
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	設問1	3.6	3.4	3.0
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	設問2	3.6	3.3	3.1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	設問3	3.7	3.4	3.0
キャリア教育実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫開発などが実施されているか	設問4	3.7	3.1	3.0
関連分野の企業関係施設等、業界団体等の連携により、カリキュラムの作成見直し等が行われているか。	設問5	3.6	3.1	2.9
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技実習等)が体系的に位置づけられているか	設問6	3.5	3.5	3.1
授業評価の実施・評価体制はあるか	設問7	3.6	3.4	3.2
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	設問8	3.6	3.4	3.0
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	設問9	3.8	3.4	3.3
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	設問10	3.7	3.5	3.1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	設問11	3.3	3.1	2.8
関連分野における業界との連携においてすぐれた教員を確保するなどマネジメントが行われているか	設問12	3.1	3.0	2.5
関連分野における先端的な知識技術等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	設問13	3.2	2.9	2.6
職員の能力開発のための研修等が行われているか	設問14	3.4	3.0	2.7

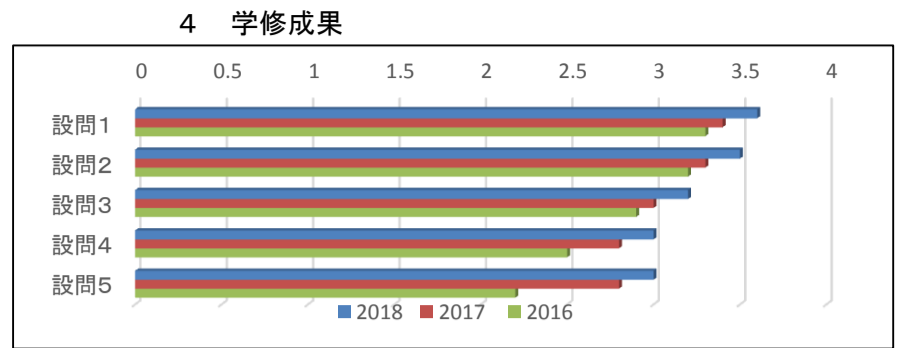
3 教育活動



14項目のすべての項目で評価は上昇しているが、設問12.設問13の「優れた教員の確保などのマネジメントについて」は、看護界全体の課題であり本校も人員確保については何とか補充はできているが、教育の質の向上、教育方法の工夫・開発等継続検討が必要である。

4 学修成果 平均 3.27

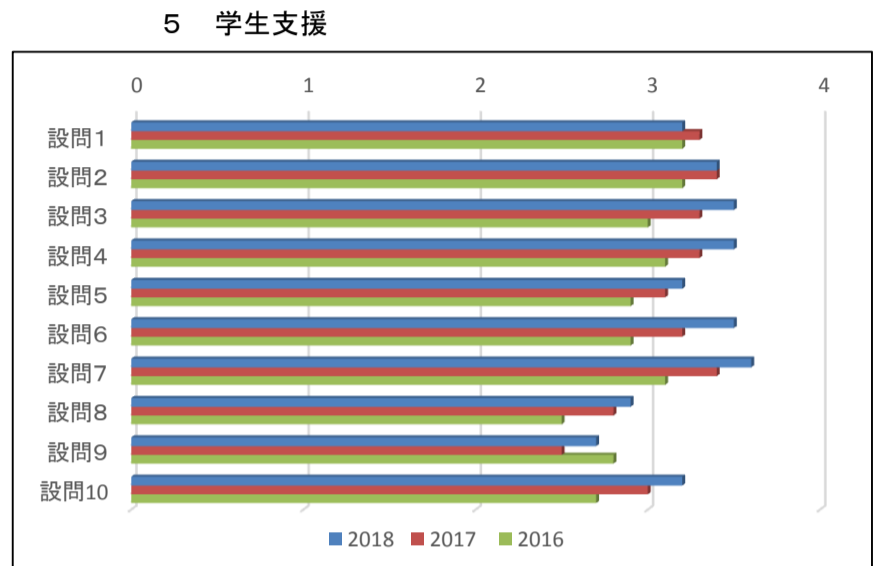
		2018	2017	2016
就職率の向上が図られているか	設問1	3.6	3.4	3.3
資格取得率の向上が図られているか	設問2	3.5	3.3	3.2
退学率の低減が図られているか	設問3	3.2	3.0	2.9
卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	設問4	3.0	2.8	2.5
卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	設問5	3.0	2.8	2.2



全ての評価項目で評価点は良くなったが3年連続して評価が低いのは、設問4と設問5である。キャリアを積んだ卒業生に学校の講師を依頼したり、臨地実習での指導に関わってもらうなどの卒業生との連携は行っている。

5 学生支援 平均 3.25

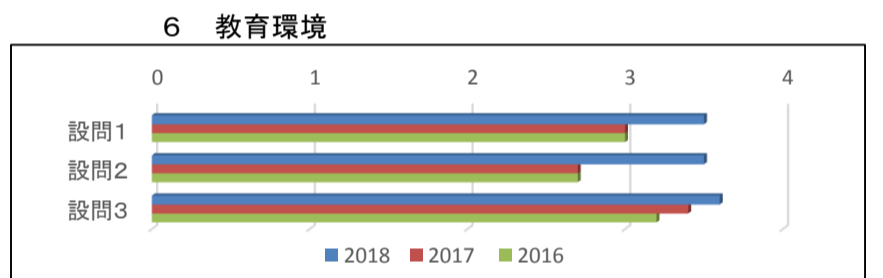
		2018	2017	2016
進路就職に関する支援体制は整備されているか	設問1	3.2	3.3	3.2
学生相談に関する体制は整備されているか	設問2	3.4	3.4	3.2
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	設問3	3.5	3.3	3.0
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	設問4	3.5	3.3	3.1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	設問5	3.2	3.1	2.9
学生の生活支援体制は行われているか	設問6	3.5	3.2	2.9
保護者と適切に連携しているか	設問7	3.6	3.4	3.1
卒業生への支援体制はあるか	設問8	2.9	2.8	2.5
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	設問9	2.7	2.5	2.8
高校、高等専修学校等との連携によるキャリア教育、職業教育の取り組みが行われているか	設問10	3.2	3.0	2.7



卒業生の支援体制については、卒業生の就職が多岐にわたっており、積極的働きかけについては課題が多いが、卒業生からの相談等には親身に対応している。

6 教育環境 平均 3.49

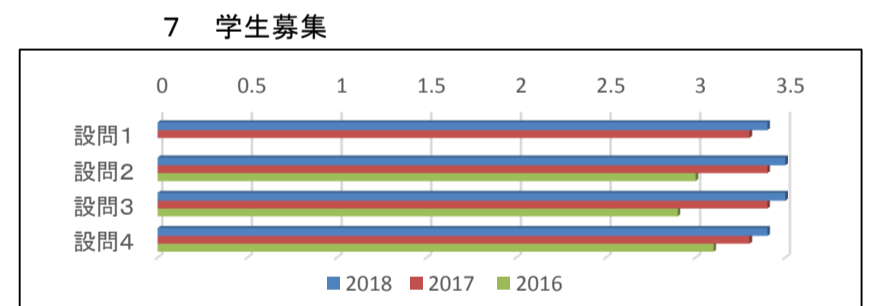
		2018	2017	2016
施設設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	設問1	3.5	3.0	3.0
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	設問2	3.5	2.7	2.7
防災に対する体制は整備されているか	設問3	3.6	3.4	3.2



学校も開校以来21年が経過し空調設備の老朽化が進み、2018年度には全館の空調機の更新を実施した。防災については毎年新入生全員を対象に防災訓練を実施し、その際「防災マニュアル」についての周知も図っている。

7 学生募集 平均 3.44

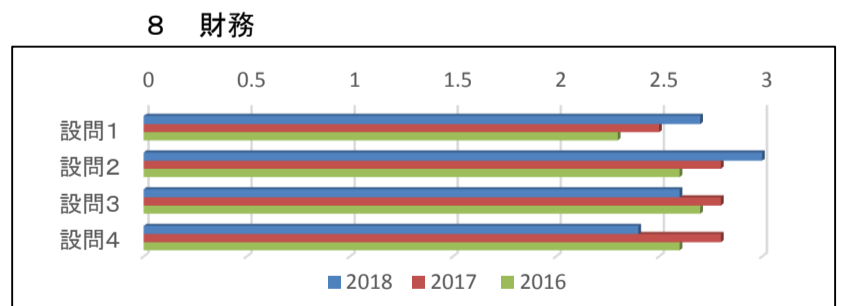
		2018	2017	2016
高等学校、接続する機関に対する情報提供等の取り組みを行っているか	設問1	3.4	3.3	3.0
学生募集活動は、適正に行われているか	設問2	3.5	3.4	3.0
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	設問3	3.5	3.4	2.9
学納金は妥当なものになっているか	設問4	3.4	3.3	3.1



継続して学校の運営目標にも掲げ、社会の動向、地域の情報収集を行い、入試広報委員会等を中心に学生確保のための対策を検討。広報担当者と教員が協力して募集活動を行っている。

8 財務 平均 2.69

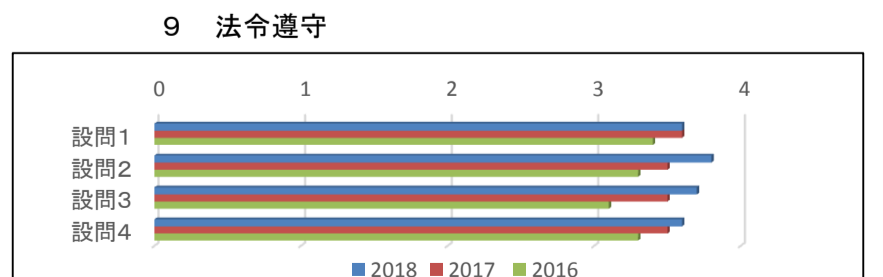
		2018	2017	2016
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	設問1	2.7	2.5	2.3
予算収支計画は有効かつ妥当なものになっているか	設問2	3.0	2.8	2.6
財務について会計監査が適切に行われているか	設問3	2.6	2.8	2.7
財務情報公開の体制整備はできているか	設問4	2.4	2.8	2.6



財務は11カテゴリー中、最も評価が低い。少子化と大学志向が強くなる中での専門学校の学生確保は厳しい状況が続き、全体数は減少傾向である。財務状況についてはできるだけ、教職員に情報公開し、経営改善の努力を続けている。

9 法令遵守 平均 3.67

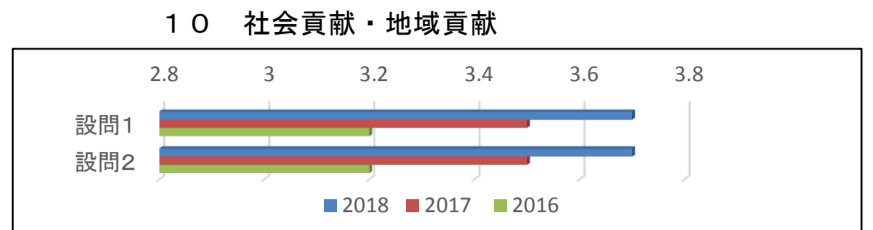
		2018	2017	2016
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	設問1	3.6	3.6	3.4
個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	設問2	3.8	3.5	3.3
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	設問3	3.7	3.5	3.1
自己評価結果を公表しているか	設問4	3.6	3.5	3.3



当然ではあるが、カテゴリ中最も評価高い。各項目とも3.6以上の評価であった。

10 社会貢献・地域貢献 平均 3.64

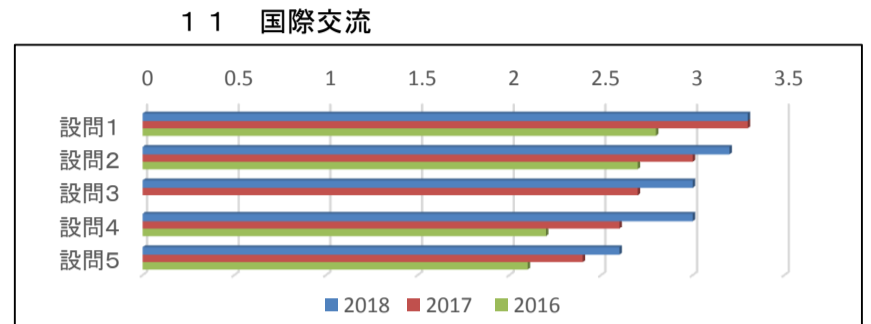
		2018	2017	2016
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	設問1	3.7	3.5	3.2
地域に対する公開講座教育訓練(公共職業訓練等)の受託を積極的に実施しているか	設問2	3.7	3.5	3.2



本校が力を入れて事業展開している分野であり、高い評価となっている。2017年度から外部委員も加わった「地域貢献協議会」も設置し、運営のための建設的な意見を頂いている。ボランティアについては2018年度は述べ293人が参加した。2017年度から地域住民と本校の学生が交流する認知症カフェ「YYカフェ」を毎月1回開催しており、2018年度の参加者は一般市民と学生、教職員を合わせて488名であった。

11 国際交流 平均 3.00

		2018	2017	2016
国際的視野を広げるための授業科目を設定しているか	設問1	3.3	3.3	2.8
国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えているか	設問2	3.2	3.0	2.7
留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	設問3	3.0	2.7	
受け入れ・派遣等において適切な手続き等が取られているか	設問4	3.0	2.6	2.2
学習成果が国内外で評価される取り組みを行っているか	設問5	2.6	2.4	2.1



財務に次いで評価が低かった。カリキュラムには「国際理解」等の授業も実施し、ネイティブティーチャーによる英会話等も授業に組み入れている。2018年度ははハワイからの学生を迎え、学生との文化交流を行った。また、広島YMCA留学生との交流も企画し、ベトナム、中国、カンボジア、フランス、ニュージーランドからの留学生と交流を図った。

III まとめ

評価結果をもとに、改善を重ねており、年々と評価はよくなっている。教職員全員を対象とした研修会も年3回実施し、教育観の統一を図り、学生への対応についてのラベルワークなども行っている。地域の住民と学生が交流できる「YYカフェ」を2017年度から1/月の開催、一般市民を対象とした、福祉・介護への理解促進セミナーを2011年度から年7回開催するなど、地域との交流や情報発信を行い、教職員の一体感も生まれつつある。今後も学生がこの学校で学んでよかったと感じてもらえる学校運営を目指して、教職員全員で努力してゆきたい。

2016年度から2018年度評価項目全体の結果

評価項目別結果	平均点		
	2018年度	2017年度	2016年度
1 教育理念・目標	3.41	3.20	3.00
2 学校運営	3.32	3.00	2.27
3 教育活動	3.51	3.25	2.95
4 学修成果	3.27	3.06	2.82
5 学生支援	3.25	3.13	2.94
6 教育環境	3.49	3.03	2.97
7 学生募集	3.44	3.35	3.00
8 財務	2.69	2.72	2.55
9 法令遵守	3.67	3.52	3.28
11 社会貢献・地域貢献	3.64	3.50	3.20
12 国際交流	3.00	2.90	2.44

